

令和 元 年度  
( 2019 年度 )

# 事 業 報 告 書

社会福祉法人おおぞら

# 目 次

	ページ
1. 法人事業報告書	- 3 -
2. 本部事業報告書	- 9 -
3. はくちょう事業報告書 (生活介護事業)	- 12 -
4. つばさ事業報告書 (就労継続支援B型事業)	- 21 -
5. やまばと事業報告書 (地域活動支援センター I 型)	- 30 -
6. やまばと事業報告書 (特定相談事業・障害児相談事業)	- 35 -
7. 障害児放課後クラブ事業報告書 (放課後等デイサービス事業)	- 37 -
8. 高齢者等困りごと支援事業報告書	- 45 -

## I. 総 括

令和元年度は、民間社会福祉法人に移行して6年目の年でした。過去5年間の実績を踏まえながら、引き続き法人の「基本理念・基本方針」の実現に向け、また「倫理と職員行動規範」の実践を目指し、利用者、家族、地域、日野市および関係諸機関の皆様のご理解と、ご支援、ご協力のもと、職員一丸となって事業の推進にあたってきました。

その一環として、職員の福祉専門性を向上させる仕組み作りと法人の健全な組織運営を担う人材の育成に更に力を入れることを目指しました。

人材の育成という点については、法人として、また各事業所として内外の研修参加を行いました。また、法人全体としては、法人研修として8月に東京都福祉人材センター研修室の登録講師派遣事業を活用した法人研修を行ないました。また1月には法人として初の試みである職員研究発表会を開催しました。このことにより、職員・法人に求められる専門性の向上を図りました。

職員組織面については、年度当初に1名の新卒新人職員を迎えることができました。正規職員21名、定年再雇用職員2名、有期契約職員19名、嘱託医1名の体制でスタートしました。年度途中で正規職員2名、有期契約職員1名の退職がありましたが人事異動及び有期契約職員の補充等で一年間を乗り切ってきました。人材確保の厳しい時代の中、今後は、各事業の体制をいま一度見直しながら職員体制を整備していくことが必要と思われる。

各事業の経営面については、つばさ(就労継続B型)については新規利用者の獲得には至らず、家庭の都合、利用サービスの変更、死亡等の理由により6名の退所者が出ました。また引き続き土曜活動を月2回実施することで延利用者数を伸ばし報酬の維持を図りましたが、稼働率の減少、平成30年度77.6%から令和元年度74.1%と前年度比-3.5%により減収となりました。はくちょう(生活介護)については、年度内に転居によるサービス利用の変更により1名の退所がありました。稼働率としては平成30年度89.5%から令和元年度87.7%と前年度比-1.8%の微減でした。報酬についても稼働率の減に加え、人員配置体制加算を1.7:1から2:1に変更したこと減収となりました。つばさ、はくちょうともに来年度については新規利用者の獲得に取り組むなどの稼働率のアップを図ることが目標となります。障害児放課後クラブ(放課後等デイサービス)においては、定員の厳正化により平成30年度98.0%から令和元年度86.0%と前年度比-12.0%の大幅な減となりました。また、やまばと(地域活動支援センター I 型事業)については、利用者数は年度当初の21名から年度末26名と増加しましたが、稼働率は前年度並ということ稼働率アップが次年度以降の課題です。

障害児放課後クラブにおいては初めて福祉サービス第三者評価を受審しました。いくつかの課題も指摘されましたので、次年度以降その改善に取り組んでいくこととなります。

つばさ・やまばと、はくちょう、障害児放課後クラブの各事業所とも、建物や設備の老朽化が目立ち、それに対応すべく前年度に引き続き大規模修繕を実施しました。次年度以降も優先順位をつけながら大規模修繕、施設整備を行なっていく必要があります。

予期しない自然災害に遭遇した時に、利用者と職員の安全を守り事業継続をしていく、また地域住民とともに地域の災害対応に貢献するための事業継続計画(BCP)の作成については、委員会を中心に取り組んできました。年度内での完成には至っておらず、次年度においても引き続き策定への取り組みを行い早期の完成を目指すものです。

また、法人発足以来掲げているグループホームの運営の明確なプランについては、具体化が進んでおり、令和2年度中に人材確保・事業運営についての更なる具体化を行い、令和2年度末若しくは令和3年度4月の事業開始を計画しています。

令和2年度以降については、現在実施している事業の安定と継続、新規事業であるグループホーム事業の展開について引き続き法人全体で取り組んでいきたいと思っております。

## II. 【令和元年度の重点目標について】

(1) 経営組織の強化に努めました。

- ① 評議員会を6月に開催しました。
- ② 理事会を年間6回開催しました。(7回予定し1回は中止)
- ③ 経営会議を月1回、原則として第2火曜日に開催しました。
- ④ 運営協議会を7月に開催しました。

- (2) 規程、規則の遵守に努めました。  
 ① 職員ハンドブックを差替を作成し職員及び有期契約職員に配布しました。
- (3) 利用者支援について  
 ① 虐待防止マニュアルに則り、虐待防止委員会の開催と職員セルフチェックリストの実施・分析を行いました。  
 ② つばさ・やまぼと、はくちょうでは定期的な避難訓練を実施しましたが、防災訓練・防犯教育の実施までには至りませんでした。  
 ③ 利用者、家族、保護者の声を聴き充実した支援の提供に努めました。  
 ④ 行事、余暇活動の実施し、利用者の生活支援の向上に努めました。  
 ⑤ 健康管理、保健衛生面の充実に努めました。  
 ⑥ つばさ、はくちょうの給食提供を行ないました。
- (4) 施設整備および施設改修を実施しました。  
 ① 建物壁面タイルの打診検査及びタイルの補修工事(つばさ・やまぼと)  
 ② PAS(気中負荷開閉器)の交換(つばさ・やまぼと)  
 ③ LED照明への切替(つばさ・やまぼと)  
 ④ 電話機入替(つばさ・やまぼと)  
 ⑤ 屋上防水工事(はくちょう)  
 ⑥ 外壁改修工事(はくちょう)  
 ⑦ 外溝改修工事(はくちょう)  
 ⑧ 防災カーテンの設置(障害児放課後クラブ)  
 ⑨ 送迎車輛の入替(障害児放課後クラブ)
- (5) 人事管理の充実にについて  
 ① 退職者への対応を人事異動及び有期契約職員の補充、新年度の職員採用で行いま  
 ② 人事評価制度の適正運用に努めました。  
 ③ 人材育成の充実に努めました。  
 ・法人研修を8月(登録講師派遣事業研修)に実施しました。  
 ・1月に職員研究発表会を実施しました。  
 ・各事業所においてOJT、OFF-JTの充実に努めました。  
 ・「新任職員研修」の実施と、「階層別職員研修」に取り組みました。  
 ・防火・防災管理者講習の受講はありませんでした。
- (7) グループホーム建設の具体化に取り組みました。  
 令和2年度末又は令和3年度4月の運営開始に向けての建て貸し方式(オーナー型)による具体化が進みました。
- (8) 福祉サービス第三者評価の実施について  
 障害児放課後クラブ(放課後等デイサービス)の福祉サービス第三者評価を実施しました。
- (9) 社会福祉充実計画の実施について  
 社会福祉充実計画の進捗状況の確認を随時行なうとともに実態に合わせて計画の変更を行ないました。
- (10) 委員会の開催と運営

委員会名		委員会の主な活動内容
①	研修委員会	法人研修(登録講師派遣事業及び、職員研究発表会)の準備を中心に行ないました。
②	虐待防止委員会	虐待防止実施要綱に則り、定例会を開催し、職員セルフチェックリストの実施と分析、対応を行ないました。
③	グループホーム建設検討委員会	グループホーム建設の新たな形としての建て貸し方式(オーナー型)のグループホームの具体化と情報収集及び情報共有を中心に委員会を実施しました。
④	地域福祉推進委員会	地域貢献事業の一環としての陶芸教室に向けての検討を行いました。(新型コロナウイルス対応により陶芸教室は中止となりました。)

⑤	事業継続計画 (BCP)策定委員会	3回の委員会を開催しました。各事業所の情報共有を行いました。BCP(事業継続計画)の確認を行い、各事業所ごとにひな形に沿って記入を行いました。年度内での完成には至っておらず、令和2年度においても引き続き策定への取り組みを行い早期の完成を目指します。
⑥	サービス管理 責任者会議	2回開催しました。開催1回目に平成30年度の支援総括及び平成31年度の支援計画立案時における取組の状況報告を行いました。つばさ、はくちょうに関しては月次にまとめがしっかりとできていることで、総括や計画の立案が合理的に行えることを確認できました。2回目には今後のサービス管理責任者委員会の議案について話し合いました。

### III. 実施事業

#### (1) 第二種社会福祉事業

ア 地域活動支援センター(やまばと)の経営

イ 特定相談支援事業(やまばと)の経営

ウ 障害児相談支援事業(やまばと)の経営

エ 障害福祉サービス事業の経営

① つばさ:就労継続支援B型

② はくちょう:生活介護

オ 障害児通所支援事業の経営

① 障害児放課後クラブ:放課後等デイサービス事業

### IV. 役員等構成

#### (1) 役員構成

(令和2年3月31日現在)

役員名	氏名	役員名	氏名
理事長	今澤 隆一郎	理 事	山田 哲道
常務理事	岩下 哲也	理 事	篠 昭義
理 事	千金良 徹哉	理 事	大山 幸子
監 事	北原 博司	監 事	山井 理恵

#### (2) 評議員構成

(令和2年3月31日現在)

役員名	氏名	役員名	氏名
評議員	橋本 正明	評議員	奥住 日出男
評議員	保里 哲夫	評議員	大澤 晃
評議員	本村 雄一	評議員	川松 ゆり
評議員	野原 久代		

## V. 評議員会開催状況

開催回数	開催年月日	出席者数	議 題 等
定時 評議員会	令和元年 6月17日(月)	(評議員) 7名 (監事) 2名 ※(理事) 6名	1. 報告事項 (1) 第1号 平成30年度社会福祉法人おおぞら事業報告について  2. 議決事項 (1) 第1号 平成30年度社会福祉法人おおぞら収支決算の承認について (2) 第2号 社会福祉法人おおぞら社会福祉充実計画の承認について (3) 第3号 社会福祉法人おおぞら理事の選任について (4) 第4号 社会福祉法人おおぞら監事の選任について

## VI. 理事会開催状況

開催回数	開催年月日	出席者数	議 題 等
第1回	令和元年 5月31日(金)	(理事) 6名 (監事) 1名	1. 議決事項 (1) 第1号 平成30年度社会福祉法人おおぞら補正予算(第5回)専決処分の報告、同意について (2) 第2号 平成30年度社会福祉法人おおぞら事業報告の承認について (3) 第3号 平成30年度社会福祉法人おおぞら収支決算の承認について (4) 第4号 社会福祉法人おおぞら社会福祉充実計画について (5) 第5号 次期役員候補について (6) 第6号 令和元年度社会福祉法人おおぞら定時評議員会の招集事項について  2. 報告事項 ・ 職務の執行状況の報告(理事長及び業務執行理事) その他の報告事項 ・ 特になし
第2回	令和元年 6月17日(月)	(理事) 6名 (監事) 2名	1. 議決事項 (1) 第7号 社会福祉法人おおぞら理事長の選任について (2) 第8号 社会福祉法人おおぞら業務執行理事の選任について
第3回	令和元年 9月3日(火)	(理事) 6名 (監事) 2名	1. 議決事項 (1) 第9号 令和元年度社会福祉法人おおぞら補正予算(第1回)の認定について (2) 第10号 社会福祉法人おおぞらグループホーム事業について  2. 報告事項 その他の報告事項 ・ 第1回運営協議会の報告 ・ 社会福祉充実計画の認可について ・ (連絡事項)大空祭、はくちょうまつりに ついて

第4回	令和元年10月11日(金)開催予定であったが中止となる。		
第5回	令和元年 11月25日(月)	(理事) 6名 (監事) 1名	1. 議決事項 (1) 第12号 令和元年度社会福祉法人おおぞら補正予算(第2回)の認定について 2. 報告事項 ・ 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況報告について その他の報告事項 ・ 第4回理事会の中止の経緯について
第6回	令和2年 2月12日(水)	(理事) 6名 (監事) 1名	1. 議決事項 (1) 第13号 社会福祉法人おおぞらグループホーム事業について(Ⅱ) 2. 報告事項 その他の報告事項 ・ 指導監査及び実地監査について
第7回	令和2年 3月25日(水)	(理事) 6名 (監事) 2名	1. 議決事項 (1) 第14号 令和元年度社会福祉法人おおぞら補正予算(第3回)の認定について (2) 第15号 令和2年度社会福祉法人おおぞら事業計画の承認について (3) 第16号 令和2年度社会福祉法人おおぞら収支予算の承認について 2. 報告事項 ・ 社会福祉法人おおぞら指導監査の報告について ・ つばさ実地検査の報告について ・ グループホーム事業の進捗状況について その他の報告事項 ・ 新型コロナウイルスについて

## VII. 監査の実施状況

開催年月日	出席者	監査事項	監査結果報告
令和元年 5月20日 (月)	1. 監事 北原 博司 山井 理恵 2. 立会人 理事長 常務理事 各施設長 経理担当者 管理者	1. 平成30年度 事業報告 2. 平成30年度 決算報告	1. 事業報告等の監査結果 ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める ②理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められず 2. 計算関係書類及び財産目録の監査結果 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める

## VIII. 運営協議会の開催状況

・委員に加えオブザーバーとして苦情解決第三者委員、また法人職員として理事長、常務理事、施設長、主査が出席して情報交換を中心に今年度は1回、運営協議会を開催しました。

開催回数	開催年月日	出席者数	会議内容
第1回	令和元年 7月30日(火)	(委員) 4名 (第三者委員) 1名 (法人職員) 5名	1. 各事業の現況報告について 2. 各事業における行事に対する考え方と取り組みについて 3. 各事業における地域との関わりについて 4. その他意見交換

## IX. 評議員選任・解任委員会

(委員構成)

(令和2年3月31日現在)

区分	委員氏名	区分	委員氏名
外部委員	衣川 輝夫	監事	山井 理恵
外部委員	川久保 紀子	事務局員	饒波 亜紀
外部委員	依田 一恵		

## X. 苦情解決第三者委員

(令和2年3月31日現在)

氏 名	氏 名
小倉 貴文	川久保 紀子

## XI. 規則、規程の整備

令和元年度につきましては、規則、規程の制定及び改正はありませんでした。

## XII. 寄附状況

法人及び事業所に対し下記のとおり寄附がありました。

6 件	435,000 円	(内訳) 家族(1件) その他(5件)
-----	-----------	------------------------

## 【施設概要】

## 職員配置

(令和2年3月31日現在)

理事長	1名	非常勤	
常務理事 業務執行理事 統括施設長	1名	常勤 (兼務)	事務長、障害児放課後クラブ 施設長を兼ねる
事務員	2名	常勤	2名

## 【本部事業について】

- ・ 法人事業方針に基づいて、経営・事業課題に取り組みました。
- ・ 各事業所との連携強化と法人事務局体制の強化に努めました。

## (1) 理事会、評議員会、監事監査の開催及び実施

## ① 理事会・評議員会の開催

	回数	開催月
理事会	6回	5月・6月・9月・11月・2月・3月
評議員会	1回	6月

## ② 監事監査の実施

監事監査	5月20日(月)	平成30年度事業報告、平成30年度決算他
------	----------	----------------------

## (2) 経営会議の運営

	構成メンバー	会議の頻度	内容
経営会議	理事長・常務理事 施設長・主査	(原則として) 1ヶ月に1回	法人運営について、また各事業の 運営状況及び経営状況の把握・ 検討等を行いました。

## (3) 本部職員会議

6月以降、原則として月1回、常務理事(事務長)、主査、主任による職員会議を行い、法人の経営等に関する情報共有の機会を持ちました。

## (4) 各種委員会の運営の補佐

- ・ 令和元年度法人重点目標に取り組むための委員会の補佐を行ないました。

- ① 研修委員会
- ② 虐待防止委員会
- ③ グループホーム建設検討委員会
- ④ 地域福祉推進委員会
- ⑤ 事業継続計画(BCP)策定委員会

(5) 人材確保と人材育成の強化

- ・ 本部として、将来の安定的法人職員組織確立に向けた人材確保に努めました。年度当初に新卒の職員を1名採用しました。しかし一方で年度途中で職員の退職者が2名出ました。年度内には、職員、有期契約職員とも充足することが難しい状況でした。令和2年度4月採用に向けた新卒者の採用にあたり、2名の採用を決めました。
- ・ 法人としては東京都福祉人材センター研修室の登録講師派遣事業を活用しての法人研修及び職員研究発表会の開催、また各事業所単位でも研修の実施等を行い福祉に携わる職員として必要な知識・援助技術の向上を図りました。

(6) 法人職員会議

- ・ 平成31年4月1日(月)、法人全体の職員会議を行い、職員全体で事業計画等を周知しました。

(7) 法人内職員研修の開催について

- ・ 「職員の資質と専門性の向上」に向けて、研修委員会と連携し、法人研修(職場内集合研修)を東京都福祉人材センター研修室の登録講師派遣事業を活用して8月に開催しました。

研修内容

実施年月日	研修テーマ	講師	参加人数
令和元年 8月27日(火)	『ホワイトボード・ミーティング®』	永久 理恵氏 (駒沢女子大学人間総合学群 非常勤講師)	(法人全体) 22名 (本部) 2名

- ・ 各事業所と連携して、新任職員研修を4月1日～5日まで実施しました。

(8) 職員研究発表会の開催について

法人研修の一環として、職員研究発表会を下記のとおり開催しました。

実施年月日	研修内容等	アドバイザー	参加人数
令和2年 1月30日(木)	・つばさ、はくちょうによる事例発表 ・各事業所による研修報告	山井 理恵氏 (明星大学人文学部教授 / おおぞら監事)	(法人全体) 23名 (本部) 4名

(9) 法人経営基盤の安定化への取り組みについて

- ・ 経営会議と連携し、各事業の法人設立後5年間の振り返りと現状分析、また今後の方向性について検証しました。

(10) 事業継続計画(BCP)の策定について

- ・ 事業継続計画(BCP)策定委員会を立ち上げました委員会および各事業所と連携して法人としての事業継続計画(BCP)の作成に取り組みました。年度内の作成完結には至っておらず、令和2年度も引き続き作成に取り組みます。

(11) 大規模修繕への取り組みについて

- ・ つばさ、やまばと、はくちょうと連携して社会福祉充実計画の生活環境向上のための大規模修繕事業に取り組みました。

(12) 各事業所と連携を図りながら、各事業所の抱える課題の解決に向けてのバックアップに努めました。

- ① 各事業の業務向上と職員の心身の安全が維持できるようサポートに努めました。
- ② 「社会福祉法人おおぞら ハラスメント防止要綱」に伴う相談窓口として職員からの苦情・相談を行ないました。

(令和元年度) 申し立て件数 2件

(13) 規程及び規則等の改正と労務管理について

- ・ 平成30年度に引き続き、社会保険労務士と顧問契約を結び、月1回のペースで相談日を設け、各種労務管理に関する相談を行ないました。

(14) 研修について

下記の研修に派遣・参加しました。

月 日	研修テーマ	主催	参加者
令和元年 8月29日	社会福祉事業従事者人権研修Ⅰ	東京都 福祉保健局	主任   1 名
令和元年 10月16日	障害福祉セミナー	積水ハウス 株式会社	主査 主任   2 名
令和元年 10月31日 11月1日	チームリーダー研修	東京都社会福祉 協議会	主任   1 名
令和元年 11月11日	社会福祉事業従事者人権研修Ⅱ	東京都 福祉保健局	主査   1 名
令和元年 11月18日	労務管理研修	全国社会福祉 事業団協議会	主査 主任   2 名
令和元年 11月28日・29日	障害者支援施設部会全国大会	日本知的障害者 福祉協会 障害 者支援施設部会	理事長   1 名

(15) 地域貢献について

- ・ 地域貢献の一環として、「旭が丘東地区センター」の受付業務を行ないました。

(16) 指導監査について

- ・ 令和2年1月30日に、日野市による指導監査を受けました。  
文書による指摘事項はありませんでした。

令和元年度	事業報告	生活介護 はくちょう
-------	------	---------------

総括  
自己評価

令和元年度は男性利用者11名、女性利用者9名の20名でスタートしました。2月に男性利用者1名が八王子市へ転居しましたが、自主送迎での利用を継続して8月で転居先の事業所へサービス移行されました。新規利用者は獲得できず、19名での事業運営となりました。年間稼働率は87.7%でした。

重点目標の研修関係については、東京都強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)の常勤職員全員の受講ができました。また、意思決定支援・合理的配慮に係る研修にも参加することができました。昨年に引き続き所内研修を実施しました。身近な事例から支援力の向上につなげられるようグループワークを主体に、チーム支援を意識できる機会を設けました。

利用者支援については、意思決定支援の強化を図るために、午後の活動プログラムをグループ制ではなく、活動別に利用者自身が選択できる機会を作り、「お楽しみの時間」として月1回、第1金曜日に試行しました。事前にわかりやすくカードやイラストなどで選択肢を提示し、活動中の様子から意思決定機会提供の有効性を検証しました。選択した活動への参加は、見通しをもって参加できるため利用者も安定しています。しかし、意思表示の難しい利用者も多く、状況の積み重ねから糸口を導けるよう、継続していく必要があるという結果が出ています。

竣工32年を経過し、経年劣化による大規模修繕として「外壁塗装」「屋上防水」「一部外構改修」工事を実施しました。竣工当初の優雅に泳ぐはくちょうのイメージが再現されました。

**【施設概要】**

事業の目的

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づき、重度知的障害者に対し

- (1) 食事、排泄等の介護、日常生活上の支援
- (2) 軽作業等の生産活動や創作的活動の機会の提供
- (3) (1)や(2)を通じた身体能力、日常生活能力の維持向上

を中心に、情緒安定を基盤としたうえで、個々の利用者の心身の状況に応じた、適切な介護を提供し、利用者の社会的自立への働きかけを行いました。

職員配置

(令和2年3月31日現在)

施設長	1名	常勤職員 (相談支援事業責任者を兼務)
サービス管理責任者	1名	常勤職員 専従
生活支援員	13名	常勤職員 5名 非常勤職員 8名 (常勤換算: 10.2名)
看護師	1名	非常勤職員(常勤換算:0.05名)
嘱託医	1名	嘱託(精神科医)

**【施設運営方針について】**

運営方針項目をさらに進めるため、令和元年度社会福祉法人おおぞら事業計画に則り、職員一人ひとりが事業所経営の視点に立ち、主体的に行動し意識改革に努め、事業の継続や安定性を保ちながら、創意工夫という柔軟性のある運営を目指しました。

【令和元年度重点目標について】

①	研修成果を発表し、現場に生かし、職員育成に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)へ参加し、それぞれが職員会議で研修での学びを発表しました。</li> <li>・ 東京都人権研修Ⅰの受講と会議での発表を通して、虐待防止意識の啓発と強化に努めました。</li> <li>・ 合理的配慮に係る研修に参加し会議での発表により、障害者差別解消法の理解と意識強化につなげました。</li> <li>・ 南多摩保健所主催の口腔関連研修への参加と、保健所歯科衛生士・歯科医による歯磨き支援技術講習会を実施し、利用者の日常的な歯磨き支援のスキルの向上に努めました。</li> </ul>
②	法人委員会と連携し災害時事業継続計画(BCP)を作成し、計画に沿った事業整備を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法人委員会の開催が予定より少なくなってしまうことで、作成したBCPを検討して行く機会が持てませんでした。</li> </ul>
③	人事評価制度におけるチャレンジシートの作成活用により法人理念の理解と、虐待防止や人権擁護など職員のスキルアップと個人面談による人材育成に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度当初にチャレンジシートを記入し、定期面談及び随時面談時に目標確認を行い、達成率を自己評価させることで、意識強化を図り実践を促しました。</li> </ul>
④	福祉サービス第三者評価の結果を受けて、改善、向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議での報告機会を増やし、学びの共有に努めました。</li> <li>・ 個人情報保護の徹底に向け、ボランティア等との誓約書の取り交わしに向け準備に取り掛かりました。</li> <li>・ BCPの作成に取り掛かり、法人委員会と連携して作成中です。</li> </ul>
⑤	利用率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年度は平均利用実績は87.7%でした。</li> </ul>

【新規事業について】

- (1) ・ 昨年度に引き続き、事業所内事例検討研修会を実施し、グループワークを通して日常支援場面における虐待防止への意識強化と、チーム支援力の強化・向上に努めました。
- (2) ・ 支援手法の一つである構造化への取り組みとして、利用者個人の個性・特性に配慮した自立課題を模索しました。自立課題への取り組みが有効と思われる利用者数人に対して、視覚支援を強化し、見通しを持つことのできる「終わり」を意識できる課題を提供しました。課題を整理し、新たな取り組みにしていきます。

【作業支援方針について】

個別支援計画に基づき、一人一人の興味・関心・能力を把握し、自己選択、自己決定を大切に作業支援を行いました。

作業を通して機能維持や向上、集中力や持続力、責任感や創造力へ働きかけをしました。情緒安定を図りながら社会活動への参加機会の提供を行いました。

【生活支援方針について】

「個別支援計画」に基づき、一人一人の状態にあった支援を行いました。

日中活動における提供プログラムの中で必要かつ適正な支援を行いました。

排泄、食事、更衣など日常生活動作や掃除や交通ルール等日常生活関連動作の働きかけを通して集団意識などの働きかけを行いました。

【保健衛生について】

健康の維持促進、疾病の予防、早期発見を目的に連絡帳による家庭との連携を密に支援をしました。

- (1) 年2回の健康診断を実施しました。  
6月、協力医療機関(日野台診療所)にて実施  
1月、嘱託医による聴打診の実施
- (2) 2ヶ月に1回、奇数月下旬に嘱託医(精神科)による相談日を設けました。

- (3) 週1回看護師による健康状態の把握と保健衛生対応を行いました。
- (4) 毎月上旬に体重・血圧を測定し、記録を家庭にも通知しました。
- (5) 身体機能の低下の予防と体力維持のため、体を動かす促しを積極的に行いました。

#### 【食事の提供について】

委託による給食提供を行いました。業者は、価格はもとより、安心安全な食材使用や季節感のあるメニューの豊富さなどを基準に選定しました。

(実績)	利用者	4,148 食	職 員	1,581 食	総提供数	5,807 食
	ボランティア	38 食	実習生	40 食		

#### 【送迎について】

生活介護事業の利用促進と福祉の増進を図ることを目的に、送迎を必要とする利用者については、送迎サービスの提供をしました。

令和元年度、年間延べ利用実績は 7,749名でした。

##### 月別送迎実績

4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計(1)	
683	648	650	718	654	545	3,898	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計(2)	合計(1)+(2)
668	658	642	621	552	710	3,851	7,749 名

#### 【家庭との連携について】

利用者の状況を把握するため、家庭との連携を密にし、より利用者のニーズに合った支援を行うため、次のことを実施しました。

- (1) 家族会を、4月、6月、8月、10月、12月、2月の6回実施をしました。
- (2) 毎日の利用で連絡帳、電話連絡等により家族との意思疎通を図りました。
- (3) 支援計画の説明、修正時以外にも必要に応じて面談、家庭訪問を行いました。
- (4) 家族との合同学習会、施設見学会は計画、実施できませんでした。
- (5) はくちょうまつりをはじめとした家族会との協働に努めました。

#### 【関係機関との連携について】

利用者の継続した地域生活と充実した生活のために、利用者、ご家族了承の下、利用しているサービス提供機関と連携し、協力を努めました。

#### 【地域交流について】

法人理念にもあるように「ともに歩む事業体」「地域福祉に貢献できる事業体」として、社会の一員としての自覚を持ち、地域社会に親しみやすい関係づくりに努めました。  
毎月第一金曜日の午後の活動時間を使用して近隣の清掃「地域清掃」を行いました。  
地域の要望に応え、日野台地区センターの管理・受付業務を行ないました。

5月	市内一斉清掃	11月	明星大学学園祭出展
8月	日野台祭典	12月	日野市障害者週間啓発展示
10月	出会いとふれあいの美術展出展・見学 事業所祭第32回「はくちょうまつり」		

#### 【ボランティアの受け入れについて】

地域に根差した事業所として、利用者の日常的な作業や活動、事業所内外の行事等における支援・介助のため積極的にボランティアの受け入れと、育成に努めました。

(延べ人数)

行事ボランティア	19名	活動ボランティア	64名	体験ボランティア	0名
				総計	83名

#### 【実習生の受け入れについて】

(1) 福祉施設・保育実習<大学等より>

介護等体験実習生	8名	社会福祉士実習生	1名
----------	----	----------	----

(2) 特別支援学校等現場実習

・実習生 1名

#### 【会議について】

定例・随時の会議を次のとおり開催しました。

職員朝礼	毎日	支援員終礼	毎日
職員会議	10回	支援員会議	37回
ケース会議	25回	総括会議	12回

#### 【職員研修について】

生活介護事業の目的達成及び職員の資質・知識及び技能の向上のために各種研修会、講演会等に積極的に参加し、多様化するニーズへ対応できる専門性を高め、事業に活かす努力をしました。

・施設内研修(OJT)

職員会議において施設長・サービス管理責任者より虐待防止及び基本的接遇・自閉症支援における支援者の姿勢に関する研修を実施しました。日常支援における言葉遣いや声の強弱、表情や呼称について具体的な場面に応じたOJTを実施しました。

・下記の通り研修に参加しました。

東社協 知的発達障害部会			東京都保健福祉局				
福祉施設の事業継続計画作成研修	施設長	1	名	人権研修 I	支援員	3	名
ご家族とよりよい関係を気づける付き合い方	支援員	1		強度行動障害支援者養成研修基礎研修	支援員	2	
施設体験研修(2日間)	支援員	1		東社協 福祉人材センター研修室			
三年目研修	支援員	1		チームリーダー重点テーマ強化研修	支援員	1	名
第1回虐待防止・権利擁護研修	支援員	1		東京都通所活動施設職員研修会			
第2回虐待防止・権利擁護研修	支援員	1		事例から学び実践に役立つ支援の考え方	支援員	1	名
知的発達障害部会	施設長	1		支援者が元気であり続けるために	支援員	1	
東京都南多摩保健所			東京救急救命協会				
障害者の歯と口腔の健康づくり	支援員	2	名	普通救急救命講習会	支援員	2	名

＊事業所内研修

令和2年1月11日(金)	事業所内事例検討研修会	16名
--------------	-------------	-----

＊法人内研修

令和元年8月27日(火)	ホワイトボードミーティング	10名
令和2年1月30日(木)	職員研修発表会	8名

【修繕について】

- ・ 屋上防水改修工事 1 件
- ・ 外壁改修工事 1 件
- ・ 外構改修工事 1 件

【安全管理について】

日常支援における安全管理のための環境整備に努めました。また、利用者の体調変化等に気を配り、異変等があった場合は早期に家庭と連絡を取り適切に対応しました。

(1) 防災対策として以下を実施しました。

避難訓練	12回
------	-----

(2) 防犯対策

事業所周辺の整理整頓に心がけるほか、必要に応じ警備会社と連携を行いました。

【緊急時の対応について】

- (1) 事故等、緊急対応が必要な事態が生じた場合は、「危機管理マニュアル」に基づいて職員が速やかに適切な対応、行動がとれるよう努めました。
- (2) 各家庭との連絡については、電話連絡網や個別対応により速やかな対応を図りました。
- (3) 警備会社とは、深夜、土曜、日曜日および祝祭日における緊急事態についても、職員に連絡が入り、連携して対応できるようにしました。

【虐待防止のための措置について】

ヒヤリハットや、毎日の終礼で職員個々人が振り返りを行うとともに、職員会議での定期的な意識啓発を実施しました。法人虐待防止委員会による「虐待防止マニュアル」にのっとり、職員セルフチェックリストを実施し、虐待防止マネージャーによる事業所支援現場の見学受け入れ、会議参加により虐待防止意識の啓発に努めました。

【個人情報保護の措置について】

「社会福祉法人おおぞら個人情報保護規程」、「福祉関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」等に沿って、個人情報の正確性及び重要性を十分認識し、適正な取り扱いに努めました。

個人情報の取得時には、個人情報の使用目的を利用者に理解いただき、同意を得た上で情報を取得しました。また、個人情報の適正管理と安全管理に適切、迅速かつ効率的な対応ができるように、責任体制を明確化しました。

更に、利用者が気軽に問い合わせることができるような体制づくりに努めました。

【苦情解決について】

苦情はありませんでした。

家族からの相談等に関しては誠意をもって対処し、適切に対応することができました。

【環境負荷の軽減・配慮について】

資源ごみ等の分別及び印刷物の裏紙使用等の徹底により、廃棄物の削減を行うとともに、電気、ガス、ガソリン等の使用量を可能な限り減らし、環境への配慮を行いました。

週間・日課表(別紙1参照)

年間行事実施(別紙2参照)

利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ利用者数 4,263名、年間平均稼働率87.7%、1日平均利用者数 17.5人でした。</li> <li>・令和元年度中の新規登録者0名。 退所者1名 令和元年度末、定員20名に対して登録者人数は19名です。</li> <li>・送迎サービス利用実績は述べ 7,749名でした。</li> </ul> <p>※ 「年齢障害別状況及び障害程度区分別利用者状況」(別表1-1)、 「月別利用状況」(別表1-2)参照</p>			
修繕 実施状況	実施日	修繕項目	施工業者等	金額
	令和元年11月2日～26	屋上防水改修工事	キングランリニューアル株式会社	2,420,000 円
	令和元年11月2日～26	外壁改修工事	キングランリニューアル株式会社	3,740,000 円
	令和元年10月5日～6日	外構改修工事	キングランリニューアル株式会社	605,000 円
事故処理 状況	発生年月日	事故内容	処理状況	
	特になし			

# 週間表・日課表

(別紙1)

	月	火	水	木	金		
8:30							
8:35	職員朝会・支援員朝会						
9:55	送迎						
10:05	登所・排泄・着替え・他						
10:30	朝会	朝会	プログラム 全体 リズム体操 運動	朝会	朝会	朝会	
	音楽・体操	音楽・体操		音楽・体操	音楽・体操	音楽・体操	
	作業	作業		作業	リトミック	作業	作業
	屋外作業・缶回収他	屋外作業・缶回収他		屋外作業・缶回収他	原則として 月2回	屋外作業・缶回収他	屋外作業・缶回収他
	屋内作業 缶作業 手芸 ほか	屋内作業 缶作業 手芸 ほか		屋内作業 缶作業 手芸 ほか	屋内作業 缶作業 手芸 ほか	屋内作業 缶作業 手芸 ほか	
11:30	〃	〃		〃	〃	〃	
11:40	排泄・着替え・休息他						
12:15	昼食						
13:30	後片付け・歯磨き・休憩						
14:30	作業 創作 散歩 ドライブ	作業 創作 散歩 ドライブ	作業 創作 散歩 ドライブ	ゆとりの時間  掃除・余暇時間	作業 創作 散歩 ドライブ	お楽しみの時間	
14:40	お茶の時間			着替え・排泄	お茶の時間		
15:00	余暇時間			帰宅準備	余暇時間		
15:10	着替え・排泄			帰りの会			
15:20	帰宅準備			送迎	着替え・排泄		
15:30	帰りの会				帰宅準備		
15:40	送迎				帰りの会		
17:00					送迎		

令和元年度		年間行事実施				はくちょう	
月	所内行事		所外行事		その他		
	行事名	実施日	行事名	実施日	行事名	実施日	
4	クッキング	4/19			家族会	4/24	
5	端午の節句	5/2	レク「ボウリング」	5/13～15	嘱託医相談日	5/24	
6			バスハイク(相模原公園)	6/7	利用者健康診断	6/20	
			外出喫茶	6/11～24	家族会	6/26	
7	七夕	7/5	プール(七生福祉園)	7/12～26			
8			プール(七生福祉園)	8/2～23	日野台祭典	8/17～18	
					家族会	8/21	
					法人研修会	8/27	
					嘱託医相談日	8/30	
9			宿泊旅行(茨城県大洗方面)	9/5～6	嘱託医相談日	9/27	
10	クッキング	10/4	みんなとつしよ運動会	10/6	家族会	10/9	
	第32回はくちょうまつり	10/27					
11	クッキング	11/8	買物外食	11/11～27	インフルエンザ予防接種	11/14	
			「出会いとふれあいの美術展」 出展・見学 ＜豊田市民ギャラリー＞	11/22～24	嘱託医相談日	11/29	
12	クッキング	12/23	日野市障害者週間啓発展示 招待行事(援農の会)「収穫祭」	12/上旬 12/13	家族会	12/4	
			クリスマス交流会 ＜サカエヤ茶楼＞	12/13			
			「初詣」(高幡不動尊)	1/14～17	所内研修会 法人職員研究発表会 嘱託医相談日・検診	1/10 1/30 1/31	
2	節分・豆まき	2/3	外出喫茶	2/14～	家族会	2/26	
	クッキング	2/7		2/28	南多摩保健所歯科研修	2/27	
3	ひなまつり	3/3			嘱託医相談日	3/13	
	クッキング	3/13					
備考	※1 その他、身体測定を毎月行いました。避難訓練を12回行いました。 ※2 利用者の誕生日に誕生会を行ないました。 ※3 「リズム体操」(年11回)、「リミック」(年21回)、「運動」(年6回)行ないました。 ※4 月1回第1金曜日にグループ毎に地域清掃に取り組みました。						

年齢障害別状況及び障害支援区分別利用者状況

(別表1-1)

(令和2年3月31日現在)

年齢別	性	～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60歳以上		計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
愛の手帳	1度	1										1
	2度	1	1	1	4	4	3	1	1			16
	3度											0
	4度							2				2
	小計	2	1	1	4	4	3	3	1	0	0	19
障害支援区分	区分1											0
	区分2											0
	区分3							1				1
	区分4					1		1				2
	区分5							1				1
	区分6	2	1	1	4	3	3		1			15
小計	2	1	1	4	4	3	3	1	0	0	19	
精神保健手帳所持者								2				2
身障手帳保有者						2			1			3

※ 在籍者の最年少は25歳、最年長は60歳です。  
平均年齢は、42.3歳でした。(男性：44.4歳 女性：40.0歳)

月別利用状況

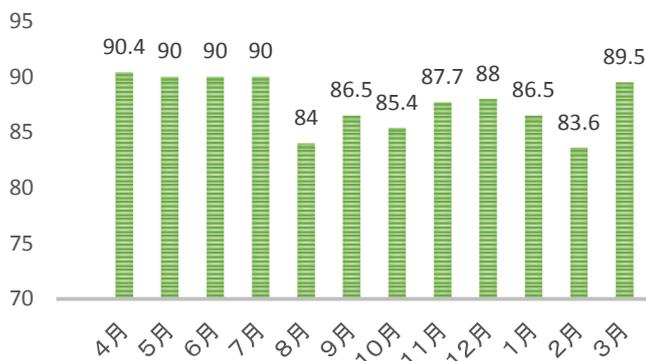
(別表1-2)

月	4	5	6	7	8	9	小計		
開所日数	21	20	20	22	21	19	123		
定員数	20	20	20	20	20	20	20		
在籍者数	20	20	20	20	19	19	—		
最大利用者数	420	400	400	440	420	380	2,460		
延利用者数	380	360	360	396	353	329	2,178		
平均利用率(%)	90.4	90.0	90.0	90.0	84.0	86.5	88.5		
月	10	11	12	1	2	3	小計	年間集計	
開所日数	22	20	20	19	18	21	120	243	日
定員数	20	20	20	20	20	20	20	20	人
在籍者数	19	19	19	19	19	19	—	—	人
最大利用者数	440	400	400	380	360	420	2,400	4,860	名
延利用者数	376	351	352	329	301	376	2,085	4,263	名
平均利用率(%)	85.4	87.7	88.0	86.5	83.6	89.5	86.8	87.7	%

※ 定員数をもとに、算出した利用状況です。  
※ 最大利用者数は、定員20名に開所日数を乗じた数です。

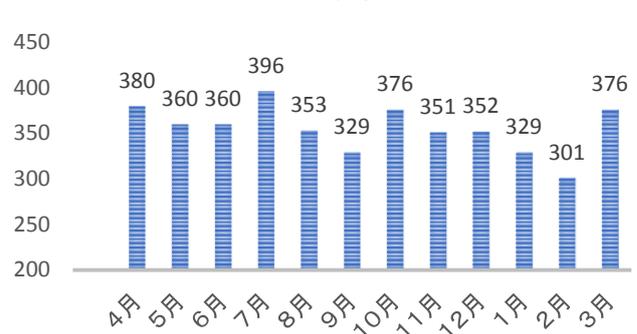
平均利用率

■ 平均利用率(%)



延利用者数

■ 延利用者数(名)



令和元年度	事業報告	就労継続支援B型 つばさ
-------	------	-----------------

令和元年度は利用者38名でスタートしましたが、6名の方が退所され、3月31日の在籍人数は男性18名、女性14名の32名でした。退所理由としては、介護施設に入所された方が2名、長期欠席者の方の退所が1名、就労移行施設への変更者が1名、病院に入院された方が1名、亡くなられた方が1名です。

職員では、4月に生活支援員1名(女性)を採用し、有期の生活支援員1名(女性)を雇用しました。また、利用者への医療的な支援者として、看護師を雇用しました。サービス管理責任者(女性)が都合により10月に退職しました。

作業面では、干支の土鈴の売上は好調でしたが、全体の作業収入は前年度とほぼ同額でした。利用者に支払う平均工賃も目標額には届きませんでした。前年度よりは若干上がりました。また、年間の延利用者数も退所された利用者が多かったため、前年度比較しますと大幅な減でした。

余暇支援では、月例の施設内行事や一泊旅行、土曜活動と利用者が楽しめる企画を提供し、作業に向かう気持ちを高める事が出来ました。

令和元年度は、大規模な修繕を実施しました。外壁のタイルの打診検査をし、建物東側及び北側の一部のタイルの張り替え工事を実施しました。また、室内、室外の蛍光灯を全てLEDに変更し、電気料金の削減を図りました。

今後も利用者、家族からの要望にしっかりと向き合い、満足度の高い支援を提供出来る様、職員の資質向上に努めます。そして利用者がつばさに来ることが生き甲斐となる様な施設作りを目指します。

総括  
自己評価

【施設概要】

事業の目的

通常の事業所に雇用されることが困難な就労経験のある障害のある方に対し、生産活動などの機会の提供、知識および能力の向上のために必要な訓練などを行いました。

職員配置

(令和2年3月31日現在)

施設長	1名	常勤職員 (地域活動支援センター・特定相談支援事業、障害児相談支援事業施設長、地域活動支援センター指導員を兼務)
サービス管理責任者	1名	常勤職員 1名 専従
生活支援員	6名	常勤職員 3名・非常勤職員 3名(常勤換算1.3名)
職業指導員	1名	常勤職員 1名
目標工賃達成指導員	1名	常勤職員 1名□
運転手	1名	非常勤職員 1名 (常勤換算: 0.5名)
看護師	1名	非常勤職員 1名

【施設運営方針について】

利用者一人ひとりが生きがいのある生活を送ることが出来るよう、作業支援を中心に生活支援、余暇支援を充実させました。

また、利用者が日々生き生きとした施設生活を送ることが出来るよう、職員は利用者個々の個別支援計画に基づき支援を実施しました。

【令和元年度重点目標について】

① 作業収入の増額	作業収入は7,951,033円でした。
-----------	---------------------

②	作業工賃の増額	平均工賃は13,000円を目指しましたが、元年度の平均工賃は12,058円でした。(前年度比 1,195円増)
③	土曜活動の参加者の拡大	350名を目指しましたが、元年度の延利用者数は344名でした。(前年度比 15名減)
④	登録者及び稼働率の向上	登録者は6名の減でした。 延利用者数は8,300名を目指しましたが、7,855名でした。(前年度比 498名減)
⑤	利用者の体力の維持及び強化	障害者スポーツ体験教室、クラブ活動での散歩、朝の日課のウォーキング、ボッチャを通して、体力の維持強化に努めました。
⑥	地域行事の参加	上の原自治会と傘松第二自治会の夏祭りに参加し、また四中地区アクションプランに参加し、旭が丘地域の方々との連携をより深めました。

【令和元年度新規事業について】

①	建物壁面のタイルの検査及び張替	建物全体のタイルの圧着検査を行い、特に危険性のある建物東側及び北側のタイルの張り替え工事を実施しました。(9,000,000円)
②	PASの交換	他の事業者への波及事故を防止するため気中負荷開閉器の交換を実施しました。(1,097,280円)
③	看護師の雇用	利用者への服薬についての指導、血圧測定等、医療的な支援者として、週1日(2時間)看護師を雇用しました。

【実施事業について】

作業全体の収入	7,951,033円
---------	------------

①	作業科目	(自主生産) ・陶芸品、石鹸等の製造販売 (受託作業) ・封入・封緘業務 ・市内5箇所の公園清掃 ・箱折 ・やまばとの清掃 ・日野市指定のごみ袋の販売 (その他) ・資源物の回収(新聞紙・ダンボール・アルミ缶等) ・自動販売機の管理
---	------	--

②	作業支援方針	利用者個々の適性や興味等を勘案し、個別支援計画及び作業支援計画に基づき支援しました。				
③	工賃の支払	売上から必要経費を控除した金額を毎月10日に工賃として支給しました。 ・工賃：延398人支給総額 4,799,092円 (前年度比 149,702円増) ・月額工賃実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>令和元年度</td> <td>12,058円</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>10,863円</td> </tr> </table>	令和元年度	12,058円	平成30年度	10,863円
令和元年度	12,058円					
平成30年度	10,863円					

【生活支援方針について】

- (1) つばさを利用する人達の個人の尊厳が保持され、心身ともに健やかに一人ひとりの個性に応じた施設生活が営めるように適切な福祉サービスを提供しました。利用者の支援にあたっては、「個別支援計画」に十分留意し、家族と協力し支援しました。

① 日常生活	食事中のマナーや歯磨き、毎日の服装等、日常生活に係わる支援を行いました。
② 地域社会を通じた活動	近隣自治会の夏祭りや大空祭での販売会等を通じて接客についての体験をしました。
③ 余暇活動	土曜活動として年22回、余暇支援、生活支援を目的とした様々な活動を提供しました。
④ 行事	一泊旅行や忘年会等の各種行事を実施しました。 (別紙2年間行事実施参照)

- (2) 第二・第四火曜日の午後ふれあいホールを使用し、東京ヴェルディの障害者スポーツ指導員よりサッカーの指導を受けました。実施回数 17回実施。
- (3) 身体を動かすことを目的として、日野市体育指導員指導のもと、テーブルピンポンやボッチャ等のスポーツを体験しました。 実施回数3回

【保健衛生について】

利用者の健康状態を常に把握し必要な対応をしました。

- (1) 協力医療機関でもある日野台診療所及びつばさにおいて、身長、体重、レントゲン、血圧、血液検査、問診等の健康診断を実施しました。また、施設においてインフルエンザの予防接種も行いました。
- (2) 連絡帳等で毎日の利用者の健康状態を把握し、点眼や塗り薬が必要な利用者の見守りを行いました。
- (3) 毎日、作業前に屋外でラジオ体操を行い、体力維持と仕事に向かう身体や気持ちの準備をしました。
- (4) 毎月のおたより等で健康に関する情報を提供し、健康意識の啓蒙と、疾病、事故防止に努めました。
- (5) 各利用者の衛生面及び健康状態を常に把握するために、下記の内容を実施しました。

・ トレーニング	毎日 (ラジオ体操) 週2回 (ウォーキング)
・ 健康診断	1回 (血液検査、問診、尿・腸内細菌検査、聴打診)
・ インフルエンザの予防接種	1回
・ 大掃除	12回(各部屋の清掃)
・ 手すり・床清掃	12月～3月 実施

【食事の提供について】

経費の節減、継続的な給食事業を実施するために、給食事業を委託しました。  
委託先:一富士フードサービス(株)

【就労対策について】

就労に必要な情報の収集等を行いました。

【家庭との連携について】

家族との連携を密にし、下記のとおり実施しました。

・ 家族会	6回実施
・ 担当支援員との懇談会	1回実施

(家族との合同行事)

・ 大空祭	10月27日
・ もちつき	12月6日

#### 【関係機関との連携について】

日野市及び特別支援学校との連携を深め情報交換を行いました。新規利用者を獲得することが出来ませんでした。

#### 【地域交流について】

全職員が施設も地域の一員であるという認識を持ち、地域の方の行事への招待や施設周辺の清掃を行い交流を図りました。

①	第32回大空祭を開催しました。家族会による模擬店、近隣自治会の企画、利用者による歌の発表や製品の即売会を実施し、近隣の方をはじめ多数の来場がありました。
②	作業ボランティア、行事ボランティアを積極的に受け入れました。 年2回の市内一斉清掃や上の原自治会及び傘松第二自治会の夏祭り、また四中地区アクションプランに参加し、地域の方々との交流をもちました。
③	※ 参加イベント ・ 上の原自治会夏祭り (7月26日・27日) ・ 傘松第二自治会夏祭り(7月21日) ・ 四中地区アクションプラン(8月25日) ・ 市内一斉清掃(5月26日・12月1日)

#### 【ボランティアの受け入れについて】

行事開催の手伝い、施設内作業の補助として受入れました。

作業ボランティア	延べ 42名
一泊旅行ボランティア	0
土曜活動ボランティア	延べ 21名
もちつきボランティア	4名

#### 【実習生の受け入れについて】

特別支援学校等(現場実習)	1名
特別支援学校等(インターンシップ)	2名
免許法の特例による介護等体験実習	8名

#### 【会議について】

下記の通り、開催しました。

支援員会議	40回
ケース会議	18回
評定会議	2回

#### 【職員研修について】

職員は、職務遂行に全力をあげるとともに、多様化する需要に対応できるよう自己研鑽により専門性を磨き、利用者支援の向上に努めました。

下記の通り研修に参加しました。

日時	内容	参加者	
令和元年5月21日・22日	初任者研修	支援員	1名
令和元年5月22日	知的発達障害部会	施設長	1名
令和元年8月26日	社会福祉従事者人権研修(I)	支援員	1名
令和元年12月5日	社会福祉従事者人権研修(II)	支援員	1名
令和2年1月28日	サービス管理責任者の職務について	施設長	1名
令和2年1月14・15日 18日	サービス管理責任者基礎研修	支援員	1名
令和2年2月20日・21日	サービス管理責任者基礎研修	支援員	1名

\*法人内研修(東京都福祉人材センター:登録講師派遣事業・職員研究発表

令和1年8月27日	ホワイトボードミーティング	7名
令和2年1月30日	職員研究発表会 事例研究発表と、各所属より今年度中にそれぞれ行った研修等の報告を受け学び合う	7名

#### 【修繕について】

下記のとおり計画的に修繕を実施しました。(やまばとと折半)

実施日	修繕項目	施工業者	金額
令和元年9月27日	PAS(気中負荷開閉器)交換	田中電設工業(株)	1,097,280 円
令和2年3月9日	外壁タイルの補修工事	キングランリニューアル(株)	9,000,000 円
令和2年3月20日	照明器具の工事(LED)	キングランリニューアル(株)	3,900,000 円

#### 【安全管理について】

##### (1) 防災対策

消防計画に基づきに火災を想定した避難訓練を実施しました。

##### (2) 訓練等実施状況

事業所内、事業所外で利用者の安全を図るため下記のとおり訓練を実施しました。

① 火災を想定した避難訓練	6回実施
② 立川防災館見学・体験	中止
③ 交通安全指導	随時実施

#### 【緊急時の対応について】

①	自然災害時等の緊急の家庭への連絡については、電話連絡網やメールにより、速やかな対応を図りました。
②	警備会社とは、深夜、土・日曜日及び祝祭日における緊急事態についても、職員に連絡が入り、連携して対応できるようにしました。
③	緊急時対応マニュアルを整備し、組織、任務分担を整備し、万一の緊急事態にも、速やかに適切な対応がとれるようにしました。

【虐待防止のための措置について】

ヒヤリハットや、毎日の終礼で職員個々人が振り返りを行うとともに、職員会議での定期的な意識啓発を実施しました。法人虐待防止委員会による「虐待防止マニュアル」にのっとり、職員セルフチェックリストを実施し、虐待防止マネージャーによる事業所支援現場の見学受け入れ、会議参加により虐待防止意識の啓発に努めました。

【個人情報保護の措置について】

「社会福祉法人おおぞら個人情報保護規程」、「福祉関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」等に沿って、個人情報の正確性及び重要性を十分認識し、適正な取り扱いに努めました。

個人情報の取得時には、個人情報の使用目的を利用者に理解いただき、同意を得た上で情報を取得しました。また、個人情報の適正管理と安全管理に適切、迅速かつ効率的な対応ができるように、責任体制を明確化しました。

【苦情解決について】

利用者及び家族からの苦情はありませんでした。  
家族からの相談等に関しては誠意を持って対処し、適切に対応することができました。

【環境負荷の軽減・配慮について】

資源ごみ等の分別及び印刷物の裏紙使用等の徹底により、廃棄物の削減を行うとともに、電気、ガス、ガソリン等の使用量を可能な限り減らし、環境への配慮を行いました。

【実地検査について】

1月30日、日野市による実地検査があり、改善を要する事項として3項目の指摘を受けました。3月3日に改善状況について、報告をしました。

週間・日課表(別紙1参照)

年間行事実施(別紙2参照)

<p>利用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ利用者数7,855名、年間平均稼働率74.1%、1日平均利用者数29.6人でした。</li> <li>・令和元年度 退所者6名</li> <li>・令和元年度末、定員40名に対して登録者人数は32名です。</li> </ul> <p>※ 「年齢障害別状況及び障害程度区分別利用者状況」(別表1-1)、 「月別利用状況」(別表1-2)参照</p>		
<p>事故処理状況</p>	<p>発生年月日</p> <p>事故はありませんでした。</p>	<p>事故内容</p>	<p>処理状況</p>

# 週 間 ・ 日 課 表

(別紙1)

時 間	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	毎月第1及び第3 土曜日
9:00	登 所・更 衣					8:30
						土曜活動
9:15	ミーティング					
9:30	トレーニング					
12:00	作 業 開 始					
13:00	昼 食・休 憩					
15:00	作業開始	クラブ活動	作業開始			14:30
	作業終了		作業終了			
15:35	全体清掃					
15:45	お 茶					
15:55	更衣・連絡帳記入					
16:00	ミーティング					
	降 所					

令和元年度		年間行事実施			つばさ
月	行 事 名				その他
	施設内	施設外	土曜活動		
4	映画会(4/3)	花見(4/2)	昭和記念公園 (4/6 利用者22名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	深沢小さな美術館 (4/20 利用者19名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	家族会(4/10) 個別面談
5	端午の節句(5/7) 映画会(5/15) 避難訓練(5/29) 健康診断(5/16・5/23)	チャンバラ合戦(5/12)	葛西臨海水族園 (5/11 利用者19名参加) (職員4名・ボラ1名参加)	よこはまズーラシア (5/18 利用者18名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	市内一斉清掃(5/26) 障害者スポーツ大会 陸上100M第1位
6	映画会(6/5)	緑日(6/27)	カップラーメンミュージアム (6/1 利用者20名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	八国山たいけんの里 (6/15 利用者12名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	家族会(6/12) 担当との懇談会
7		宿泊旅行(7/4・7/5) (勝浦温泉)	所沢航空発祥記念館 (7/13 利用者15名参加) (職員4名)	東京富士美術館 (7/20 利用者13名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	傘松第二自治会夏祭 (7/21) 上の原自治会夏まつり (7/26・27)
8	お楽しみ会(8/5・7) 映画会(8/7)	四中地区アクションプラン (8月25日)	府中郷土の森 (8/3利用者12名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	サントリー武蔵野ビール工場 (8/17 利用者13名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	法人研修(8/27)
9	避難訓練(9/26) お月見(9/20) 映画会(9/4)		狭山市立博物館 (9/7 利用者17名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	所沢トトロの森公園 (9/21 利用者13名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	家族会(9/11)
10	大空祭(10/27) 映画会(10/16)	みんなといっしょの運動会 (10/6 ふれあいホール)	山梨県ブドウ狩り (10/5利用者18名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	深大寺・神代植物公園 (10/19 利用者16名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	家族会(10/9)
11	インフルエンザ予防接種 (11/7) 映画会(11/6)		戸倉しろやまテラス (11/2 利用者16名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	八王子長池公園 (11/16 利用者15名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	産業祭(11/9・10)
12	忘年会(12/13) 年末大掃除(12/27) もちつき(12/6) 避難訓練(12/25) 映画会(12/4)	ミュージカル鑑賞(12/24 府中市ドリームホール)	コニカミノルタサイエンスドーム (12/7 利用者16名参加) (職員4名・ボラ1名参加)	多摩六都科学館 (12/21 利用者14名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	市内一斉清掃 (12/1) 家族会(12/11)
1	新年会(1/6) 避難訓練(1/29) 映画会(1/15)		高幡不動尊 (1/11 利用者16名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	国立ハンセン資料館 (1/18 利用者11名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	法人研修・職員研究 発表会(1/30)
2	節分(2/3) 映画会(2/19) 避難訓練(2/27)	ユニバーサルスポーツ イベント(2/2 ふれあい ホール)	赤塚不二夫記念館 (2/1利用者15名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	相模原市立博物館 (2/15 利用者14名参加) (職員3名・ボラ1名参加)	家族会(2/12)
3	ひなまつり(3/3) 避難訓練(3/30) 映画会(3/4)				
その他	・スポーツ体験教室(月2回実施 ふれあいホール)・ポッチャ(7/23・11/17・2/18) ・誕生日会(月末)・地域美化活動実施(第一・第三水曜日の午前) ・クラブ活動 カラオケ・学習(毎週火曜日の午前)				

年齢障害別状況及び障害支援区分別利用者状況

(別表1-1)

(令和2年3月31日現在)

年齢別	～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60歳以上		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
愛の手帳	1度										0
	2度		1	1		1					3
	3度	3	1		2	5	3	3	2		19
	4度	1	1			2		1	4		9
	無							1			1
	小計	4	3	1	2	8	3	5	6		32
障害支援区分	区分1										
	区分2				1				2		3
	区分3		1			2	1		1		5
	区分4	1		1					2		4
	区分5	1	1								2
	区分6										0
小計	2	2	1	1	2	1	0	5		14	
身障手帳保有者	1										1

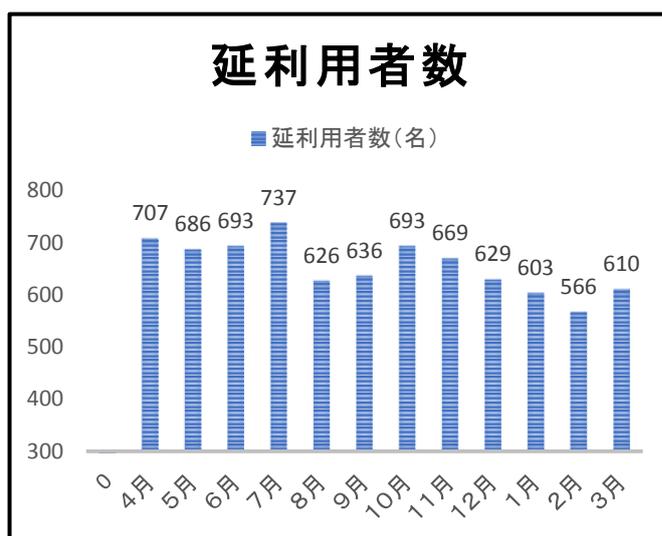
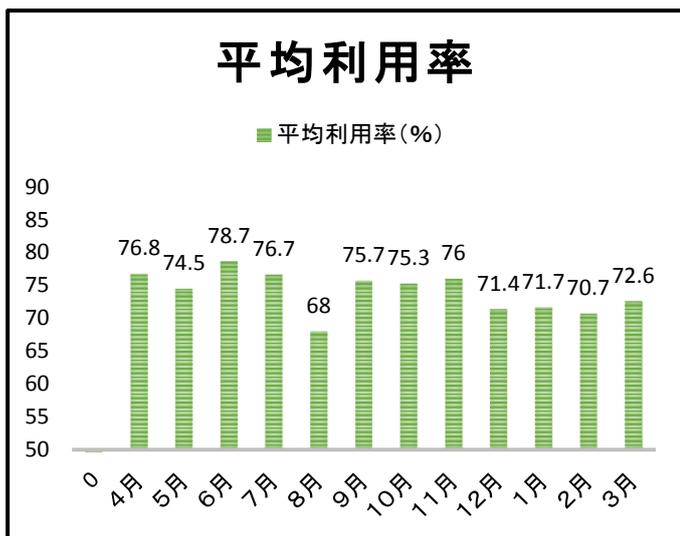
※ 在籍者の最年少は23歳、最年長は59歳です。  
平均年齢は、43.2歳でした。(男性：42.7歳 女性：43.9歳)

月別利用状況

(別表1-2)

月	4	5	6	7	8	9	小計		
開所日数	23	23	22	24	23	21	136		
定員数	40	40	40	40	40	40	40		
在籍者数	38	36	36	36	35	34	—		
最大利用者数	920	920	880	960	920	840	5,440		
延利用者数	707	686	693	737	626	636	4,085		
平均利用率(%)	76.8	74.5	78.7	76.7	68.0	75.7	75.0		
月	10	11	12	1	2	3	小計	年間集計	
開所日数	23	22	22	21	20	21	129	265 日	
定員数	40	40	40	40	40	40	40	40 人	
在籍者数	34	34	34	32	32	32	—	— 人	
最大利用者数	920	880	880	840	800	840	5,160	10,600 名	
延利用者数	693	669	629	603	566	610	3,770	7,855 名	
平均利用率(%)	75.3	76.0	71.4	71.7	70.7	72.6	73.0	74.1 %	

※ 定員数をもとに、算出した利用状況です。  
※ 最大利用者数は、定員40名に開所日数を乗じた数です。



令和元年度	事業報告	地域活動支援センターⅠ型 やまぼと
-------	------	----------------------

総括  
自己評価

日野市在宅障害者福祉サービスの拠点として、利用者からの要望などを考慮し、活動の提供に努めました。そのうちのひとつとして希望の多かった外出は、今年度は利用者交流会（近場への半日の外出）を毎月行い、1日を通しての外出は4回開催しました。活動の成果の発表としては、毎月のホームページでの紹介や10月の大空祭で展示や即売を行いました。

また、障害者総合支援法に移行後、障害種別も撤廃され、様々な障害をお持ちの方が利用されるようになりました。今年度も活動内容は障害別に分けることなく一緒に活動し、ボランティアや講師、実習生にも協力していただき、障害者間の交流だけではなく様々な方との交流が持てるような関係づくりに努めました。日々の活動の中でも、積極的にボランティアや実習生を受け入れてきました。そして地域では、第四中学校の1年生を対象とした車椅子講習会やブラインドウォーク体験など、事業の周知とともにボランティア育成にも努めてきました。

成果としては、この数年課題として挙げられていた「65歳以降も今と同じサービスを」と望まれていた利用者の方の継続利用が、一定の条件付きで今年度より可能となりました。一方、個別対応を望まれる利用者の方には、実際に現場に携わる職員数や提供できるサービスの量にも限界があり、個別の対応や活動の設定といった面で今後も課題が残ります。誰にも満足していただけるサービスを提供していくことの難しさを感じずにはいられません。また、ここ数年利用の仕方も多様化してきており、仕事がお休みの日に1日利用されたり、春休みや夏休みだけの利用といった方々も出てきています。今後も様々なニーズに少しでも応えられるよう、努めて参ります。

【施設概要】

事業の目的

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に基づく、日野市在宅障害者福祉サービスの拠点として、地域活動支援センターⅠ型として活動しました。

職員配置 (令和2年3月31日現在)

施設長	1名	常勤職員(つばさ、特定相談・障害児相談施設長及びやまぼと指導員を兼務)
相談員	1名	常勤職員 (特定相談支援事業、障害児相談支援事業の相談支援専門員)
指導員	2名	常勤職員2名(1名専任・1名兼務) 非常勤職員 1名
運転手	1名	非常勤職員

【施設運営方針について】

障害者も健常者も共に地域の中で生活できる社会を目指して、社会交流事業や市内福祉関係の事業に参加し相互理解や交流が得られるように努めました。

【令和元年度重点目標について】

①	基礎的事業	ホームページ等での情報発信および地域での会議などを通して、日中の居場所を探している障害をお持ちの方に情報が届くような発信をしてきました。
②	ボランティア育成事業	日野市立第四中学校の福祉体験会(車椅子体験)に携わりました。

【地域活動支援センターの基礎的事業について】

創作的活動の機会の提供として8種類のプログラムを提供し、延べ1,355名(1日行事・社会交流事業・ボランティア育成事業は含まない)の方の利用がありました。

【相談支援事業について】 (特定相談支援事業及び障害児相談支援事業の相談含む)

障害を抱えている当事者の方及びその家族、関係者からの相談に応じ、必要な情報提供等の便宜を供与することや、権利擁護のために必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活または社会生活を営むことができるように支援してきました。

また、日野市地域自立支援協議会への参加を通して、他機関との連携及び社会資源の過不足の確認、ある資源の活用や必要な資源の見直し等に努めました。

相談者(障害者ご本人・ご家族・障害児の保護者・障害を持つ方の関係者・関係機関)の実人員は 246名。延相談件数は 4,809件(表1)でした。相談内容は多岐にわたり、障害福祉サービス、制度、就労、家族、住居、家計、人間関係、権利擁護、生活全般、情報提供など等 15,630件(表2)でした。

(相談方法)

(表1)

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
件数	291	311	16	553	703	16	1,793	1,126	4,809

(相談内容)

(表2)

	福祉サービスの利用等	障害や病状の理解	健康・医療	不安の解消・情緒の安定	保育・教育	家族関係・人間関係	家計・経済	生活技術
件数	1,098	1,106	1,107	2,543	109	948	124	3,439
	就労に関する相談	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他	計			
件数	881	1,244	50	2,981	15,630			

【創作的活動、生産活動について】

月間活動プログラムの実施内容

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1週	午前	軽体操	音楽療法	おりがみ	グループワーク	軽体操
	午後	絵てがみ	軽体操	社会交流事業	軽体操	籐工芸
2週	午前	軽体操	音楽療法	リズム体操	グループワーク	軽体操
	午後	絵てがみ	軽体操	グループワーク	利用者交流会かグループワーク	籐工芸
3週	午前	軽体操	音楽療法	おりがみ	グループワーク	軽体操
	午後	絵てがみ	軽体操	社会交流事業	軽体操	籐工芸
4週	午前	軽体操	音楽療法	リズム体操	グループワーク	軽体操
	午後	絵てがみ	軽体操	グループワーク	利用者交流会かグループワーク	籐工芸
5週	午前	軽体操	音楽療法	おりがみ	グループワーク	外出体験
	午後	絵てがみ	軽体操	グループワーク	軽体操	外出体験

午前	午前9時30分～午前11時30分
午後	午後1時30分～午後3時30分

- ・ グループワークでは書道・絵画・脳トレ・ゲーム・パソコンなど選択していただきました。
- ・ 今年度も、肢体不自由児・者の美術展に2名の方が出展されました。
- ・ (外出体験)

実施日	実施内容	参加者数
令和元年5月30日	花園フォレスト他	10名
令和元年8月30日	六都科学館	9名
令和元11月29日	宮ヶ瀬ダム	6名
令和2年1月31日	狭山市立博物館	3名

- ・ (利用者交流会)

実施日	実施内容	参加者数
4月4日	富士森公園	8名
5月9日	TAKAO599MUSEUM	8名
6月27日	ボウリング SAP日野ボウル店	8名
7月11日	コニカミノルタサイエンスドーム(八王子市こども科学館)	5名
8月8日	日野自動車21世紀センター	8名
9月12日	市内落川のウエルシアとSeriaに買い物	6名
10月10日	ふるさと府中歴史館と大國魂神社	6名
11月14日	トッパン・フォームズ旭が丘工場見学	5名
12月12日	パルテノン多摩マジックサウンドルーム	6名
1月9日	立川市歴史民俗資料館と諏訪神社	4名
2月13日	イーアス高尾	4名
3月26日	新型コロナウイルス感染症の影響で中止	

#### 【社会交流事業について】

社会との交流の促進として、映画会・軽スポーツ体験会（ポッチャ）・手芸などを実施しました。

・ 映画会	4月・ 5月・ 6月・ 7月・ 8月・ 9月 10月・11月・12月・ 1月・ 2月・ 3月
・ ゲーム	4月・11月
・ マクラメ	6月
・ 卓球	7月
・ 七宝焼き	8月・9月
・ 軽スポーツ(ポッチャ)	10月
・ クリスマスリース作り	12月
・ タッセル作り	2月
・ マグネット作り	3月

#### 【送迎について】

月	運行回数	延利用人数	月	運行回数	延利用人数
4月	68	155	10月	78	174
5月	64	153	11月	66	156
6月	78	161	12月	70	167
7月	84	167	1月	68	162
8月	73	171	2月	64	112
9月	65	147	3月	74	169
			計	852	1,894

【障害に対する理解を促す普及啓発について】

地域の中学校と連携を図り、福祉講話と車椅子体験を行いました。また、ボランティアや福祉の学生だけではなく、介護等体験や職場体験の中学生も受け入れ、障害に対する理解を促す普及啓発に努めました。

【関係機関との連携について】

- ・必要に応じて関係機関と連絡を取り合い、利用者が望まれるサービスを提供できるよう尽力に努めました。
- ・地域住民及び地域で活動する団体が相互に協力し合い、地域の福祉課題を把握し、主体的に解決することにより地域共生社会を創る地域力を強化・推進することを目的とした地域力強化推進事業会議や活動に、福祉の専門職として召集され、会議に参加しました。

【地域交流について】

地域の方に施設及び障害について理解してもらう機会を作りました。

①	ボランティアの受け入れ。
②	地域活動支援センターの活動や成果の発表を目的とした「大空祭」をボランティアの協力のもと開催し(利用者は12名)、地域との交流の場としました。

【ボランティア育成事業について】

地域との連携は、近隣の日野市立第四中学校の一年生を対象とした講話と車椅子体験会(ブライندウォーク)を学校と一緒に実施し、操作方法などを指導し、交流を深めました。

また通常活動の中で、月曜日午前中に3名・火曜日午後1名・木曜午後1名・第1・3・5木曜午後1名・金曜日午後2名のボランティアを受け入れてきました。

・ 事前学習(日野市立第四中学校)	9月21日	240名
・ 福祉体験会(日野市立第四中学校)	9月24日	253名

【実習生の受け入れについて】

・ 教員免許取得のための介護等体験など	8名
・ 社会福祉士実習	2名
・ 職場体験(中学生)	2名

【会議について】

会議名	対象職種	会議日
職員会議	全員	第三金曜日及び随時
送迎従事者会議	全員	月1回及び随時
連絡打ち合わせ	全員	毎日(朝・夕)

【職員研修について】

\* 法人内研修 (令和元年8月27日「ホワイトボードミーティング」:1名参加、及び令和2年1月30日「職員研究発表会」:1名参加)

\* 令和元年5月21日～24日、「視覚障害者・就労支援者講習会」に1名参加。

\* 令和2年2月9日、南多摩医療と介護と地域をつなぐ会第15回フォーラム「ケアを町に組み込む」に1名参加。

\* 令和2年2月16日、「高次脳機能障害 症例検討会」に1名参加。

#### 【修繕について】

下記のとおり修繕を行いました。 (つばさと折半)

実施日	修繕項目	施工業者	金額
令和元年9月27日	PAS(気中負荷開閉器)交換	田中電設工業(株)	1,097,280 円
令和2年3月9日	外壁タイルの補修工事	キングランリニューアル(株)	9,000,000 円
令和2年3月20日	照明器具の工事(LED)	キングランリニューアル(株)	3,900,000 円

(つばさと折半)

#### 【安全管理について】

自衛消防隊を設置し、安全管理に努めました。

※ 避難訓練 4回実施

#### 【緊急時の対応について】

- (1) 緊急時の各家庭への連絡については、電話等により、速やかな対応を図りました。
- (2) 警備会社とは、深夜、土・日曜日及び祝祭日における緊急事態についても、職員に連絡が入り、連携して対応できるようにしました。
- (3) 緊急時対応マニュアルを整備し、組織、任務分担を整備し、万一の緊急事態にも、速やかに適切な対応がとれるようにしました。

#### 【虐待防止のための措置について】

利用者の人格を尊重する視点に立ったサービスを提供し、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のための研修を職員に対し実施しました。

また、法人虐待防止委員会による「虐待防止マニュアル」の配布と読み合わせを行い、法人としての虐待防止委員会を設置、事業所に虐待防止マネージャーを選任し体制づくりに努めました。

#### 【個人情報保護の措置について】

「社会福祉法人おおぞら個人情報保護規程」、「福祉関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」等に沿って、個人情報の正確性及び重要性を十分認識し、適正な取り扱いに努めました。

#### 【苦情解決について】

利用者及び家族からの苦情はありませんでした。

家族からの相談等に関しては誠意を持って対処し、適切に対応することができました。

#### 【環境負荷の軽減・配慮について】

資源ごみ等の分別及び印刷物の裏紙使用等の徹底により、廃棄物の削減を行うとともに、電気、ガス、ガソリン等の使用量を可能な限り減らし、環境への配慮を行いました。

<b>令和元年度</b>	<b>事業報告</b>	<b>特定相談支援事業・障害児相談支援事業 やまぼと</b>
--------------	-------------	------------------------------------

総括自己評価

特定相談支援事業及び障害児相談支援事業として、障害児者及びそのご家族が望む自立した社会生活を支えることを目的として、抱える課題の解決や適切なサービスの利用に向けて、その方に合ったサービスが利用出来る様、計画相談を作成しました。また、定期的なモニタリングを通して、サービスが適正であるか、サービスの量や内容に変更がないか、提供状況の把握をしました。

令和元年12月に相談支援専門員が退職したことにより、はくちょうの施設長が兼務にて業務を引き継ぎました。また、令和2年2月に専任の相談支援専門員を配置し、責任者、相談支援専門員、事務員の3名で支援体制を作り、業務を見直し、標準化を図りました。

計画相談の請求実績も前年度と比較し大幅に増えています。今後もあらゆるニーズに対応出来る様、関係機関との調整、自立支援協議会での情報の交換、共有を通してサービスの向上に努めます。

**【施設概要】**

事業の目的

利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者又は障害児の保護者の選択に基づき、適切な保健、医療、福祉、就労支援、教育等のサービスを総合的かつ効率的に提供しました。

職員配置

(令和2年3月31日現在)

施設長	1	名	常勤職員 (つばさ、地域活動支援センターI型施設長、やまぼと指導員を兼)
相談支援事業責任者	1	名	常勤職員(はくちょう施設長を兼務)
相談支援専門員	1	名	常勤職員
事務員	1	名	非常勤職員 (地域活動支援センター相談員の補助)

**【実施事業について】**

特定相談支援・障害児相談支援において、支給決定又は支給決定の変更前に、サービス等利用計画案・障害児支援利用計画案を作成しました。また、支給決定又は変更後にサービス事業者等との連絡調整、計画の作成をしました。支給決定後は、厚生労働省令で定める期間毎に、サービス等の利用状況の検証を行い、計画の見直し(モニタリング)を行いました。また、サービス事業者との連絡調整、支給決定又は支給決定の変更に係わる申請の勧奨を行いました。

**【相談支援事業について】**

(地域活動支援センターI型の一般相談を含む)

利用状況

相談者(障害者ご本人・ご家族・障害児の保護者・障害を持つ方の関係者・関係機関)の実人員は246名。延べの相談件数は4,809(表1)でした。相談内容は多岐にわたり、障害福祉サービス、制度、就労、家族、住居、家計、人間関係、権利擁護、生活全般、情報提供など等15,630件(表2)でした。

(相談方法) (表1)

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
件数	291	311	16	553	703	16	1,793	1,126	4,809

(相談内容) (表2)

	福祉サービスの利用等	障害や病状の理解	健康・医療	不安の解消・情緒の安定	保育・教育	家族関係・人間関係	家計・経済	生活技術
件数	1,098	1,106	1,107	2,543	109	948	124	3,439
	就労に関する相談	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他	計			
件数	881	1244	50	2981	15,630			

(計画相談請求実績) ※過去5年の実績

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
障害者	59	80	155	217	221
障害児	0	0	1	7	25
計	59	80	156	224	246

【令和元年度重点目標について】

特定相談支援・障害児相談支援では、障害者(児)への適切なサービス提供に向けて、サービス等利用計画の作成、事業者との連絡調整及び連携と変化に応じた計画の見直し等の充実を図りました。

【職員研修について】

- ※ 8/27 法人研修「ホワイトボードミーティング」
- 9/26 「令和元年度南多摩保健所障害者施設支援研究会」
- 1/30 法人研修「職員研究発表会」

【安全管理について】

自衛消防隊を設置し、安全管理に努めました。

避難訓練	4回実施
------	------

【関係機関との連携について】

日野市並びに地域の保健、福祉、教育及び医療サービスなど様々な機関との連携を図り、総合的なサービスの提供に努めました。

【虐待防止のための措置について】

利用者の人格を尊重する視点に立ったサービスを提供し、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のための研修を職員に対し実施しました。

【個人情報保護の措置について】

「社会福祉法人おおぞら個人情報保護規程」、「福祉関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」等に沿って、個人情報の正確性及び重要性を十分認識し、適正な取り扱いに努めました。

【苦情解決について】

利用者及び家族からの苦情はありませんでした。

【環境負荷の軽減・配慮について】

資源ごみ等の分別及び印刷物の裏紙使用等の徹底により、廃棄物の削減を行うとともに、電気、ガス、ガソリン等の使用量を可能な限り減らし、環境への配慮を行いました。

令和 元 年度	事 業 報 告	放課後等デイサービス 障害児放課後クラブ
---------	---------	-------------------------

総括 自己評価	<p>今年度障害児放課後クラブは高校生12名、中学生8名、小学生9名でスタートしました。そのため昨年度に引き続き中高生には年少者への気遣いとリーダーシップの発揮を促す声掛けや場面設定を行ってきました。そして、卒後社会に出ることを念頭に置き、一人一人の特性に合わせた役割分担の設定を試み、それを個別支援計画に反映させました。そのことが小学生たちに自然と中高生への信頼関係が作られ利用児童全体にとっても良い影響を与えてくれたように思われます。</p> <p>昨年度実地検査で指摘をされたカーテンの防災化を8月に実施をしました。引き続き利用児童にとって安全で過ごしやすい環境を作る努力をしたいと思います。</p> <p>実施検査で指摘をされた利用定員の厳正化の結果稼働率が約10%減少しました。そのため利用者向け限定ホームページで毎日の欠席状況を公開し、それに基づいて定員内の臨時利用をしやすくしました。そのことにより稼働率の改善が見られました。また各種配置加算を取ることに伴う報酬の増額も行いました。引き続き稼働率及び報酬の改善のための努力を続けたいと思います。</p>
------------	---

【施設概要】

事業の目的

学校に通学する障害児に対して、放課後等デイサービスを提供することにより、児童及び保護者の福祉の増進を図ることを目的としました。

職員配置

(令和2年3月31日現在)

施設長	1名	(法人常務理事、事務長を兼務)
管理者	1名	常勤職員1名(児童発達支援管理責任者を兼務)
児童発達支援 管理責任者	1名	(管理者を兼務)
児童指導員	2名	常勤職員 1名 非常勤職員 1名
指導員	6名	非常勤職員6名
運転手	1名	非常勤職員1名

【施設運営方針について】

①	利用児童と学校との連携により、発達段階に応じた個別の援助と支援を行いました。
②	関係自治体及び地域の保健・医療・福祉サービス機関との連携を図り総合的なサービスの提供に努めました。
③	児童福祉法他関係法令を遵守し、事業を実施しました。

【令和元年度重点目標について】

個別支援計画の作成を主とする援助と支援の充実が求められました。そのため家庭との連携と職員の資質向上に努めました。

6か月ごとの個別支援計画作成のための家族との面談、計画の作成および報告の流れは確立できましたが、研修を主とした職員の資質向上はまだ不十分でありました。

人事評価制度の活用にはまだ課題もあり、今後より職務の基準を明確化することでの職員のスキルアップと個人面談による人材育成が必要と思われます。

利用者の方々に良質で適切なサービスを提供し、事業の質を向上させるために第三者評価を受審しました。

支援の質の向上と支援内容の適正化のため利用者保護者等向けと職員向けの自己評価を実施しました。

【新規事業について】

特にありません

【放課後等デイサービスの内容について】

①	児童発達支援計画の作成		
②	基本事業		
	ア	自立した日常生活を送るための支援	
	イ	創作的活動、作業活動	※音楽療法士による活動も22回行いました。
	ウ	余暇の提供	
	エ	相談業務	
	オ	地域交流の機会の提供	
カ	送迎サービス	※年間で延べ3,760人の利用がありました。 (1日平均16人)	

【保健衛生について】

①	家庭と連携し、毎日の利用児童の健康状態を把握しました。また、服薬、既往症等の調査を実施しました。
②	施設全体として衛生意識の啓発、向上に努めました。

【食事の提供について】

食事の提供は実施しませんでした。

【送迎について】

学校開業日は、七生特別支援学校、平山小学校及び平山中学校等に事業所のワゴン車でお迎えに行きました。

学校休業日は自宅付近までお迎えに行きました。

帰りは希望者を自宅付近まで送りました。

年間利用人数	延べ3,760人
--------	----------

【家庭との連携について】

①	毎日の連絡帳で利用児童の状況を相互に把握しました。
②	個別支援計画の作成と報告のため保護者との面談を行いました。

【関係機関との連携について】

七生特別支援学校主催による「放課後等デイサービス機関等との連絡会」に参加をし、意見交換を行いました。

利用児童の所属学校の学校公開日や行事等の見学を行い情報交換をしました。

七生特別支援学校の呼びかけによる利用児童のケース会議に参加をし、学校及び他事業所との情報交換と注意事項の確認等を行いました。

エールの呼びかけによる日野市発達支援関係機関連絡協議会に出席をし、エールの事業報告、発達支援に関する協議、その他情報交換を行いました。

【地域交流について】

①	ボランティア等を積極的に受け入れ、事業運営における有効な社会資源として活用しました。
②	平山台健康・市民支援センター内で活動をしている「平山台交流の会」より野菜畑の提供を受けて、芋掘りを行いました。
③	年三回平山台健康・市民支援センター利用団体連絡会で日野市及び各団体と情報交換等を行っています。

【ボランティアの受け入れについて】

夏のボランティア体験	募集をしたが参加者無し	
ボランティアセンターの紹介	3名	延べ4日

【実習生の受け入れについて】

今年度はありませんでした。

【会議について】

会議名	対象職種	実回数	会議名	対象職種	実回数
連絡 打ち合わせ	全員	毎日	個別支援計画関 連会議	児童発達支援 管理責任者 指導員	3回
ケース会議	全員	12回	職員会議	全員	3回

【職員研修について】

テーマ	主催者	参加者	
学校公開	七生特別支援学校	指導員	4名
		児発管	2名
エール見学及び意見交換	日野市内放課後等デイサービス 事業所連絡会	指導員	5名
		児発管	1名
指標判定調査について	日野市内放課後等デイサービス 事業所連絡会	指導員	1名
		児発管	1名
日野市子ども家庭支援セ ンター 意見交換	日野市内放課後等デイサービス 事業所連絡会	指導員	6名
		児発管	1名
作業販売会	七生特別支援学校	指導員	4名
日野市社会福祉協議会との 協働について	日野市内放課後等デイサービス 事業所連絡会	指導員	1名
		児発管	1名

\*法人内研修 第1回「ホワイトボードミーティング」(1名)及び 第2回「職員研究発表会」(2名)に参加しました。

【修繕について】

- ・指導訓練室及び事務室の防災カーテンの設置
- ・空調機修繕

## 【安全管理について】

①	利用児童の安全を図ると同時に、建物及び内外の施設の事故防止に心掛けました。
②	利用児童に万が一怪我等があった場合は、協力医療機関または保護者の指定する医療機関に連絡する等必要な処置を講ずる他、家庭等に連絡を取るなど適切な対応に努めました。

### (1) 防災対策

①	防災対策については、地域との連携も図りながら、事業所周辺の整理整頓に心がけました。
②	消防計画に基づき、火災予防に努めるとともに、自衛消防活動により、定期的に避難訓練を行いました。
③	震災対策についても、消防計画に基づき、安全かつ迅速な対応ができるようにしました。

### (2) 防犯対策

防犯対策は、警察署、警備会社と連携をとって対応しました。

## 【緊急時の対応について】

①	緊急時の各家庭への連絡については、電話等により、速やかな対応を図りました。
②	組織、任務分担を整備し、万一の緊急事態にも、速やかに適切な対応がとれるようにしました。

## 【施設整備等】

### ・送迎車輛の入替え

老朽化対策、また安全性の向上のため従来のリース車輛を新規車輛に入替えました。

## 【虐待防止のための措置について】

利用者の人格を尊重する視点に立ったサービスを提供し、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のために、虐待防止のための研修資料を職員で学習しました。

## 【個人情報保護の措置について】

「社会福祉法人おおぞら個人情報保護規程」、「福祉関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」に沿って、個人情報の正確性、重要性を十分認識し、適正な取り扱いに努めました。

## 【苦情解決について】

利用者及び家族からの苦情はありませんでした。  
家族からの相談等に関しては誠意を持って対処し、適切に対応することができました。

## 【環境負荷の軽減・配慮について】

資源ごみ等の分別及び印刷物の裏紙使用等の徹底により、廃棄物の削減を行うとともに、電気、ガス、ガソリン等の使用量を可能な限り減らし、環境への配慮を行いました。

【福祉サービス第三者評価について】

利用者サービスの質の向上を目的に第三者による利用者調査と事業評価を受けました。

評価機関名：特定非営利活動法人福祉推進機構アシスト

訪問調査日：令和2年1月15日

※ 福祉サービス第三者評価結果(別紙1参照)

【日課表】

(学校開業日)	
14時00分～16時00分	余暇活動・学習等
16時00分～16時15分	おやつ提供
16時15分～17時00分	設定プログラム (運動・絵画・創作・音楽等)
17時00分～	家庭への送り開始
18時00分	終了

(学校休業日)	
9時00分～10時00分	家庭へのお迎え
10時00分～11時00分	余暇活動・学習等
11時00分～12時00分	設定プログラム (運動・絵画・創作・音楽等)
12時00分～13時00分	昼食
13時00分～14時00分	余暇活動
14時00分～15時00分	夏季休暇中は水遊び等 それ以外は屋外活動
15時00分～16時00分	余暇活動
16時00分～	家庭への送り開始
17時00分	終了

【年間行事実施】

月	行事名	備考
4月	お花見	
8月	お化け屋敷見学	平山児童館の都合により中止
12月	クリスマス会	
毎月利用児童のお誕生日会を行いました。		

利用状況	◎ 利用者(学校別・学年別・性別)状況 (別表1-1)のとおり			
	◎ 月別利用状況 (別表1-2)のとおり			
	◎ 送迎サービス利用状況 (別表1-3)のとおり			
修繕実施状況	実施日	修繕項目	施工業者	金額
	令和元年8月	防災カーテン設置	(株)ニチベイサービス	222,480円
	令和2年3月	空調機修繕	(有)大平電機	102,300円
事故処理状況	発生年月日	事故内容	処理状況	
	なし			

## 福祉第三者評価の結果

(別紙1)

[全体の評価講評:放課後等デイサービス]

平成31年度(2019年度)

《事業所名:障害児放課後クラブ》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	法人が運営する他の施設の機能も活用し、利用者に対する支援の充実を図っている
	内容	法人は障害を有する小・中・高校生を対象とする放課後クラブ(放課後等デイサービス)を運営しているほか、障害者(児)に対する相談、支援等を行うための地域活動支援センター、特定相談支援事業・障害児相談支援事業、生活介護、就労継続支援B型事業所を運営している。施設長の兼務、各施設間の職員の異動も行われるなど、法人全体としての協力体制は出来ている。そのため、放課後クラブの高校生の卒業後の進路相談の際など、利用者やその家族等に対し、法人の他施設の機能も活用した有益な情報も提供でき、利用者への支援の充実が図られている。
2	タイトル	放課後クラブは自由にやりたいことに取り組める貴重な場として「おとなの枠にはめずに」、子ども自身の発想を大切にしている。
	内容	当施設は旧小学校の教室を転用して開設され、城址公園に隣接する自然環境にも恵まれて、グラウンドや森・林を伸び伸びと動き回って遊べる多様な活動を提供している。「放課後クラブ」は学校から家に帰る間に自由にやりたいことに取り組める貴重な時間として、おとなの枠にはめず子ども自身の発想を大切にしている。音楽療法のリミックスでは小学生から高校生の異年齢集団が、お手製のマラカス等を振りながらピアノに合わせて自分の感じたままに体を動かしている。ゲームも取り入れて進行し、一人ひとりが主体的に生きいきと活動する様子が見られる。
3	タイトル	恵まれた環境を最大限に生かして、一人ひとりにリラックスできる活動を支援している
	内容	平成20年に市の独自事業の児童デイサービスとして開所し、26年4月に児童福祉法による放課後等デイサービスに移行している。高台の住宅地にある施設は、グラウンドと中庭と大きな教室を3室使用できる広々としたゆとりのある空間である。旧教室はおもちゃ一杯の部屋、のんびり寝転がれる部屋、おやつと職員室として使用し、その他ピアノの部屋を借りて音楽療法を行い、広い廊下も遊び場である。空間を最大限に生かしたプログラムを発想し、プラレールやキッチンセット等のスペースが必要な玩具やパソコンも揃え、職員が遊びを見守っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員会議の定例化等により、さらに法人と一体となった施設運営の充実を期待したい
	内容	法人は、当施設(障害児放課後クラブ)以外に、複数の障害者(児)の事業所を運営している。その中で当施設は、独自の施設運営方針、重点目標等を掲げた事業計画や年度の総括自己評価もある事業報告書を作成し、重点課題の徹底等に取り組んでいる。こうした状況下、他施設の機能も活用した支援の充実も図っている。法人の常務理事及び事務長の職にもある施設長は、管理者と役割分担を図りつつ現場に向いているが、現場からは法人本体との結びつきを更に高めたい等の意見もある。施設長が出席する職員会議の定例化等の工夫を期待したい。
2	タイトル	放課後等デイサービス事業を安定して行っていくため、利用率の向上とともに加算の取得等引き続きの対応を期待したい
	内容	「障害福祉サービス等報酬改定」があり、報酬区分の設定等、基本的要件の見直しがあった。また、地元市による実地検査があり、利用定員の厳正化等の指導による稼働率の低下があり、報酬の大幅減があった。施設では、これらに対し喫緊の課題として取り組み児童指導員等加配加算等、各種加算を確保した。また、稼働率100%を目指し、利用者限定のホームページを開設し、利用者に毎日の欠席状況を公開し臨時の利用を促進している。施設では引き続き加算の取得、中重度の障害児の受入れの対応を考えている。成果を期待したい。
3	タイトル	職員研修実施要綱の着実な運用を図り、職員育成に取り組むとともに、マニュアルの整備等による組織力の更なる向上を期待したい
	内容	法人には「職員研修実施要綱」がある。研修計画の作成等定められ、対象職種ごとに年間の研修計画を作成し、個人用の研修計画育成計画書も作成することになっている。一方、職員からは個別の研修計画を整備し、非常勤も含めて様々な研修に参加できるようにする必要があるのでとの意見もある。実施要綱の着実な運用等を行い、職員の意向等も配慮した職員育成への取り組みを期待したい。また、施設では業務の標準化についての取り組みは不十分と認識している。組織力の向上を図り、より良い支援の提供を図るためにもマニュアル等の更なる整備も期待したい。

利用者(学校別・学年別・性別)状況

(別表1-1)

(令和2年3月31日現在)

	小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1		中2		中3		高1		高2		高3		小計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
七生特別支援学校	2	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	3	1	7			1	19	7			26			
平山小							1	1																2	0	2	
平山中													1											0	1	1	
七生中													1											1	0	1	
合計	0	2	1	0	2	0	1	0	2	0	1	1	2	1	1	1	0	3	1	7	0	0	1	22	8	30	

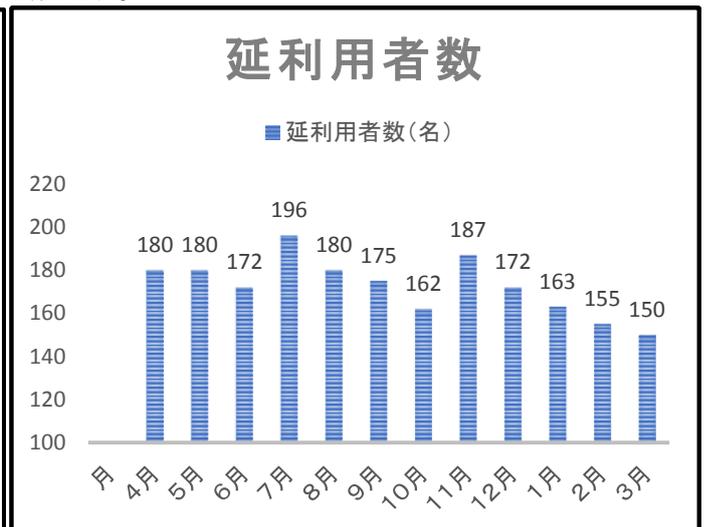
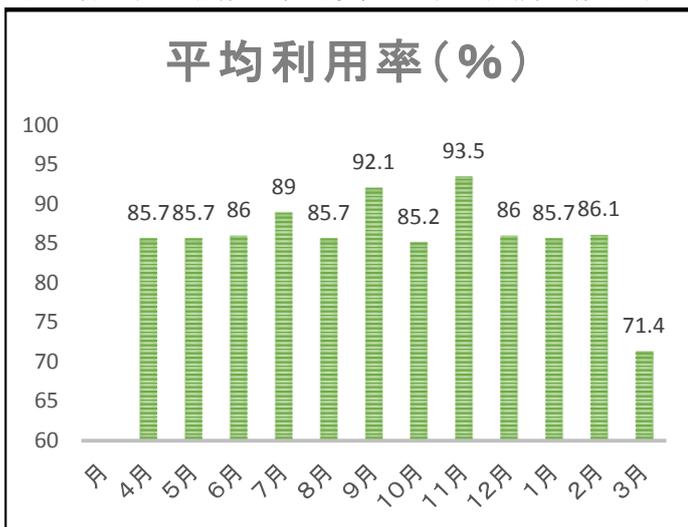
月別利用状況

(別表1-2)

月	4	5	6	7	8	9	小計		
開所日数	21	21	20	22	21	19	124		
定員数	10	10	10	10	10	10	10		
在籍者数	29	29	29	29	29	29	—		
最大利用者数	210	210	200	220	210	190	1,240		
実利用者数	180	180	172	196	180	175	1,083		
平均利用率(%)	85.7	85.7	86.0	89.0	85.7	92.1	87.3		
月	10	11	12	1	2	3	小計	年間集計	
開所日数	19	20	20	19	18	21	117	241 日	
定員数	10	10	10	10	10	10	10	10 人	
在籍者数	29	29	29	29	30	30	—	— 人	
最大利用者数	190	200	200	190	180	210	1,170	2,410 名	
実利用者数	162	187	172	163	155	150	989	2,072 名	
平均利用率(%)	85.2	93.5	86.0	85.7	86.1	71.4	84.5	86.0 %	

※ 定員数をもとに、算出した利用状況です。

※ 最大利用者数は、定員10名に開所日数を乗じた数です。



送迎サービス利用状況

(別表1-3)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	
利用 人数	331	317	325	361	315	329	1,978	(人)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
利用 人数	303	355	313	303	284	224	1,782	3,760

## 目的

高齢者見守り支援ネットワーク事業の中の一つとして、高齢者等のちょっとした困りごとを手助けするために、平成20年6月15日から事業を開始しました。

概ね65歳以上の高齢者のみの世帯及び障害者のみの世帯を対象としましたが、65歳未満でも必要と判断した場合はサービスを行いました。

## 1 事業内容

高齢者等の困りごとへの支援体制を整えるために、市広報及びチラシの配布などをおとして、協力員を募り、説明会を行い、令和元年度末の協力員登録者数は9名でした。

市民向けPRとして、ちょっとした困りごとサービスのちらしを市内の集会所など高齢者の集まる場所に設置しました。

## 2 支援活動状況(前年度支援活動した実績206件)

(単位:件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
支援活動したもの	10	16	19	23	9	19	15	19	21	14	12	13	190
業者紹介など	4	2	9	7	8	8	6	5	5	1	9	2	66
情報提供のみ	1	1	0	2	3	1	1	1	1	1	0	0	12
対応不可のもの	0	2	1	0	4	2	1	1	3	1	1	1	17
依頼取り下げ	0	3	4	2	2	1	2	2	4	2	2	0	24
計	15	24	33	34	26	31	25	28	34	19	24	16	309

## 3 支援活動した内訳

(単位:件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
照明器具等の購入・交換	6	4	7	6	1	6	5	7	9	6	4	3	64
小型家具等の移動	1	3	2	7		5	6	8	4	1	4	5	46
電気器具の操作・説明													0
家電・建具等の点検	1	5	7	7	6	5	1	4	7	6	4	4	57
水回り修理等													0
その他	2	4	3	3	2	3	3		1	1		1	23
計	10	16	19	23	9	19	15	19	21	14	12	13	190

## 4 作業協力員連絡会

令和元年10月17日、令和2年2月18日に協力員連絡会を開催しました。  
協力員間の情報や意見交換を中心に行いました。